

No.26

September  
2004

NSnet

# NSnet News

第40～41回相互評価の実施

第62～64回安全キャラバンの実施

その他トピックス

## 第40～41回相互評価の実施

今回は、日本原子力発電(株)敦賀発電所 と (株)東芝 京浜事業所のピアレビューの状況を紹介します。

ピアレビューの概要及び報告書の全文はNSネットのホームページ (<http://www.nsnet.gr.jp/>) に掲載していますのでご覧下さい。

回	実施時期	会員名・事業所名	所在地	施設分類
40	H16.5.11～14	日本原子力発電株式会社 敦賀発電所	福井県 敦賀市	原子力発電施設
41	H16.7.21～23	株式会社東芝 京浜事業所	神奈川県 横浜市	プラント設計・製造施設

### 日本原子力発電(株)敦賀発電所ピアレビューの主な結論

原子力安全の面で直ちに改善措置を施さなければ重大な事故の発生に繋がるような事項は見出されなかった。

「原子力発電所では安全が全てに優先する。その上で安定した運転を経済的に行う発電所運営及び地域との共生に取り組むこと。」との所長方針のもとに、全社員が一体となって、原子力安全確保の継続・強化に、真剣かつ誠実に取り組んでいる。

安全意識レベルの向上と風通しの良い職場作りのため、所員及び協力会社社員とのコミュニケーションを重視し、また安全月間の諸活動、ヒューマンファクター活動等を展開している。

2種類の炉型(PWR及びBWR)があるので、定期検査時の安全確保には特に配慮している。

今後、現状に満足することなく、なお一層の安全文化の向上を目指してさらなる自主保安努力を継続していくことが望まれる。



敦賀発電所



レビュー状況

### 主な良好事例

定検ハンドブックの作成・配布による方針等の周知・徹底

ワンエラーを想定した作業手順書の作成

作業重要度分類に応じたチェックシートの色分けによる人的過誤防止

保守作業の直営化と保修課員の社内アライアンス運用

協力会社との積極的なコミュニケーションの実施

電子線量計の開発と実用化によるより効果的な線量管理の実施

## 主な改善提案

被ばく線量データの防護手段

ヒヤリハット事例のより効果的な活用へ向けた改善

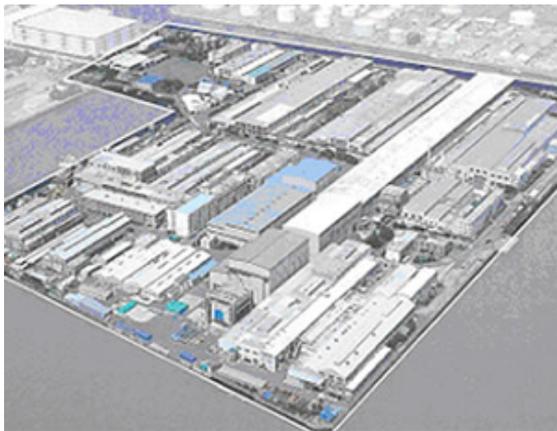
## (株)東芝 京浜事業所ピアレビューの主な結論

原子力安全の面で直ちに改善を施さなければ重大な事故の発生に繋がるような事項は見出されなかった。

昨今の原子力事業をとりまく環境の変化のなかにあって、「京浜ものづくり元気プラン」を事業所大で展開し、経営変革活動として「M I 活動」(Management Innovation)、小集団活動として「S G P サークル活動」(Small Group Project)を実施し、技術・技能の継承と発展、個人の育成・力量のアップ、作業マニュアルの充実、コミュニケーション強化が推進されており、これらの活動はトップ自らが率先垂範して取り組んでいる。

原子炉機器の設計・製造にあたっては、総合生産システムを始めとするIT技術を十分に活用した設計、製造技術、試験検査、製造進捗状況等に関する情報システム群が構築され、従業員がこれを有効に使用することにより、業務の正確さと迅速さに貢献している。

今後、現状に満足することなく、なお一層の安全文化の向上を目指して更なる自主努力を継続していくことが望まれる。



(株)東芝京浜事業所本工場全景



レビュー状況

## 主な良好事例

京浜事業所長による顔の見える直接対話活動

「京浜ものづくり元気プラン」活動の実施

設計者全員が参加する全体連絡会によるコミュニケーション向上

M I 活動によるコミュニケーション向上

工作部門における多能工化への取り組み

## 主な改善提案

「設計審査」や「DR会議」に参画する専門技術者の人選に専門技術者リストを活用することの明文化  
ヒヤリ・ハット事例の更なる活用

# 第62～64回安全キャラバンの実施

今回は、第62～64回の安全キャラバンの状況を紹介します。

安全キャラバンのより詳しい内容についてはNSネットのホームページをご覧ください。

回	実施時期	会員名・事業所名	安全講演会講師	講演テーマ
62	H16.6.29	レーザー濃縮技術研究組合 東海濃縮事業所	(株)日立製作所 特別顧問 加藤 洋明氏	日立におけるモノ作りの精神と 企業倫理
63	H16.7.27	東北電力(株) 東通原子力発電所建設所	三菱マテリアル(株) 環境部門フェロー 浅野 闘一氏	環境経営における リスクマネジメント
64	H16.9.8	三菱電機(株) 受配電システム事業所	東京電力(株) 原子力技術・品質安全部 部長 村松 龍夫氏	コンプライアンスとオープンなコミ ュニケーションの定着に向けて

## レーザー濃縮技術研究組合 東海濃縮事業所 安全キャラバン <安全講演会>

講演テーマ：日立におけるモノ作りの精神と企業倫理

メーカーの立場からは、納入した製品が無事故でしっかり働いて、顧客や社会のお役に立つことが最大の願いである。

事故・トラブルを発生させないことが肝要である。万一発生した場合は、臭いものに蓋をせず、失敗を率直に認めること、誠をもって対応すること、再発防止のために動機的原因を徹底的に究明することなどが大切である。

信頼性向上活動の中でも特徴的な『落穂拾い』は日立のモノ作りの精神とまで言われ、技術者倫理や企業倫理に相通じるところがある。

これからの原子力安全文化の維持向上に求められるものとして

- (1) 継続・伝承の強い意志(トップの意思表明と事故の教訓)
- (2) 調達先・外部従事者への徹底(双方向コミュニケーション)
- (3) 社外トラブル例の把握(情報交換の仕組み作り)
- (4) 積極的な社会との対話(施設見学、対話、教育への参加)



加藤 洋明氏

## <安全情報交換会>



安全情報交換会の様子

主な情報・意見交換として、以下がありました。

レーザー濃縮技術研究組合ではパフォーマンス指標を取り入れているが、どの様な経緯で実施したのですか。

定例的に行う所内会議において、以前から工事物量等の指標を報告し、所内でチェックする運用を行っていたが、その運用方法を見直す際に、NSネットから提案のあったパフォーマンス指標を参考に体系化した。

## 東北電力株式会社 東通原子力発電所建設所 安全キャラバン

### <安全講演会>

講演テーマ：環境経営におけるリスクマネジメント

リスクマネジメントとは、リスクの事前検知、リスク要因の根絶、具現化の予防、そのためリスク評価やリスクコミュニケーションを駆使して、日頃の活動を律すること、万一具現化した場合、迅速な危機管理体制を確立することであり、環境経営とは、企業価値最大化のために、環境リスクの存在を早めに検知して、危機の未然防止を図り、企業価値の縮小を防止するリスクマネジメントと考える。

無知や無視により発生した環境汚染事象が原因で法律違反、倫理違反に発展するとリスクの具現化となり、加えて、隠蔽、虚偽の説明を行うと内部告発で露頭、消費者の不買運動、市民の反発が起きるなど、いわゆる「リスクの連鎖」に発展するケースもある。

こうなると危機管理になるが、危機管理コスト、事後処理コストなど経済的損失が発生するほか、企業のイメージダウン、従業員のモラルダウン、株主訴訟の可能性もあり、結果的に企業価値の縮小、株主利益の減少にいたる。

リスクマネジメントの観点から、環境監査や原子力安全監察に力を入れている。環境監査は、PDCAのサイクルに則って日常業務の実態を把握、環境リスクの有無を事前にチェックし必要に応じ対策行動をとるよう指導しレベルアップを図った。原子力安全監察は社内、子会社の原子力関連部門について、リスクの具現化予防を目指して、法令の遵守状況、マニュアルの整備状況、社内上下のリスクコミュニケーションを通じた情報共有化の進展度などチェックしている。



浅野 闘一氏

### <安全情報交換会>

主な情報・意見交換として、以下がありました。

福島第二原子力発電所で毎日開催している不適合委員会での議題はどのようなものですか。

現場での不適合全てを対象としています。

例えば、床に水がこぼれていた程度でも不適合委員会に挙げられます。

小さな事でも発見者は不適合報告書を作成し提出することになっています。



安全情報交換会の様子

## 三菱電機株式会社 受配電システム事業所 安全キャラバン(速報)

### <安全講演会>

講演テーマ：コンプライアンスとオープンなコミュニケーションの定着に向けて

国内外のコンプライアンスを成功させた事例や不成功の事例および東電のコンプライアンスの定着、コミュニケーションの活性化に向けた取り組みについて講演頂きました。



村松 龍夫氏

### <安全情報交換会>

相互評価の良好事例紹介及び三菱電機の安全文化醸成活動の紹介などの意見交換が行われました。



安全情報交換会

# PATRAM2004への参加

NSネットでは、平成16年9月20日から25日にかけてドイツ、ベルリンにて開催されたPATRAM2004(放射性廃棄物管理・輸送に関する国際会議)に参加し、NSネットの設置趣旨、活動状況について紹介致しました。

本会議は、1970年代に米国のサンディア研究所の主催で開催されたのが始まりで、放射性物質の輸送関連では世界で最大の国際会議です。

輸送関連の国際会議への参加及び発表は初めてで不慣れな点もありましたが、国内外の原子力関連の専門家へNSネットの存在をPRすることが出来ました。

NSネットでは、今後も様々なイベント等に積極的に参加し、原子力安全文化の普及と倫理観の徹底をはじめとしたNSネットの活動を広く紹介していく所存です。



全体会議の状況



発表の様子(安全部 島倉大輔)



ブース展示の状況

**お知らせ** 今年のNSnet News(6月号)から季刊(年4回発行)となりました。  
より親しみやすい紙面とするため、季節毎の風景や草花などの自然を楽しめるよう会員の皆様から表紙の写真を募集しています。



今後ともご愛読をお願いいたします。

(表紙写真 / 北海道 美瑛の丘 (NSネット事務局員撮影))



docomo/au



Vodafone

こちらのバーコードからNSネット携帯サイトへアクセスできます。

NSnet News No.26 2004年9月発行  
〒100-0004 東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル437号室  
TEL:03-5220-2666 FAX:03-5220-2665  
インターネットでNSネットの詳しい活動内容をご紹介します。  
<http://www.nsnet.gr.jp>

